

北陸石仏の会々報

第 2 号

平成5年6月18日発行

編集発行

北陸石仏の会(日本石仏協会北陸支部)

代表 藤村 善雄

富山県砺波市太田一七七〇 尾田武雄方

電話 〇七六三―三二一―二七七二

〒939-13 振替 金 沢 四 一 一 九 七 四

また辿りたい金沢例会の跡

京 田 良 志

○卯辰山観音院。越中安居寺観音(旧国宝、現重文)と同一体といわれる本尊像、是非ともいつか拝観したいものである。気になる石造物として、観音堂入口左右の狛犬(織豊)、大きな浮彫地藏、笠付三十三観音(安永)、独鈷形の百度石(明治)、肉合彫り風の観音(最近)等、近くあらためて訪ねたい。

○普正寺遺跡石仏・石塔。昭和四十年に発掘、時に連絡をうけておりながら訪ねられなかった遺跡である。今なら保存されていたろうにと残念。遺品には、報告書で見えていたより時代幅があつて、十四世紀に遡るものも一部ある。多くは十五世紀後半から一部十六世紀初めだろうか。形式化した越前式装飾が、非越前石製品にありそうで興味深い。

○成巽閣石幢。会長の重ねての交渉にもかかわらず、垣間見ることししか出来なかったのが残念。現状は六角型の石燈籠で、石幢とされるのはその竿。宝珠・笠・火袋・中台等合っつていず別物。

基礎もまた別物ではないかとそれを確認したかった。どうやら寄せ集めであつて竿が石幢の幢身、ただし明応四年(一四九五)は大丈夫で、六面に刻む地藏立像も上等である。

○竹沢御殿跡地藏堂地藏。石龕扉の上親しく拝観するのはこれがはじめてである。同石質、同大、おそらく同形の地藏浮彫立像二体である。風化、磨滅が著しく、取り付く島がない。とはいへ、舟形であつたらう光背はうすく、対して厚い像容の肉が特色であり、かつ短い裾の表現もまた特色である。最下に手前に造り出した台部があり、その正面に五葉の蓮弁が薄肉彫りされている。裾の表現と、この蓮弁の形は江戸時代も十七世紀末から十八世紀前半の特色である。元禄を中にして、その前後の作ではあるまいか。同じものが他に四体あつて、六地藏を成していたことも考えられる。背面に「大同二年」とあるというのは、後刻か、傷あるいは単なるいいつたえか。正面のこれだけのしゃれようからすれば、例え背面に文字があつても読めないであろう。

○月照寺の石造物。二組の三十三観音をはじめ、一風変わった越前石製品の数々、あらためてゆっくり訪ねたい。同じく石造物の多い無住の玉泉寺に哀れをとどめる。玉泉園が繁昌しているというのに……

北陸石仏の会 第二回例会記録

藤村会長自らの企画・折衝・主導による第二回例会（金沢例会）は、三月二十八日（日）参加者五十一名、入会者二十名という盛況裡に終わった。心配された天候も、最後の見学を終えてバスに乗り込むまでもち、今振り返って見ると、爽やかな春風に押されての巡行だったと思う。会長からお聞きしたところによると、貸切バスの予約は二度にわたって変更された。ことにメ切日が過ぎた三月十八日、『北国新聞』（会長連載の石仏写真の下）に金沢例会のことが報じられ、参加希望者数が一挙に増えた。例会日は日曜日であり、かつバスのスト予定日という悪条件のなか、バスと食事の予約変更にあたられた、と同時に、尾山御坊跡の石塔塔身と、成巽閣の石幢の見学許可の交渉を例会日直前まで続けられた（前者は許可、後者は垣間見ることができました）。また当



兼六園 竹沢御殿跡 地蔵堂の地藏2体

日は、金沢工業高等専門学校教授の千徳英一様に、メガホンを片手に引導いただき、金沢工業大学教授藤島秀隆様には、方々で解説をいただくなど大変お世話になりました。この二方からも当日の参加費をいただいまして、申しわけなく思っています。

卯辰山では、①東山御坊前を通り、蓮如上人像を見上げて②宝泉寺へ。同寺では昭和六年設置の八十八ヶ所石仏その他多数の石仏・石塔・石標を見学。西に市街を眺めながら、大きな浮彫観音像前で記念写真を撮影。歩いて③観音院へ。ここは石仏・石塔等石造物の宝庫である。次の④石川県立歴史博物館では第一棟一階の、普正寺遺跡出土の石仏・石塔にほぼ絞って、他の展示、それから建物そのものにも後ろ髪引かれる思いで去る。半数分の入場料を支払って⑤兼六園へ。金沢神社の横に積まれた辰巳用水導水石管らしいものを横目で見、成巽閣の石幢（明応四年在銘）を垣間見、せきれい島の陰陽石の説明を聞いて、竹沢御殿跡の地蔵堂にいたる。二体のしゃれた地蔵さん、これだけの衆目にさらされるのは、おそらくはじめてであったろう。園内の茶店「東山」での昼食、これまた古都金沢の味でけっこうでした。帰り、コトジ灯籠前で一服、近く二代目に代わるという虹橋を踏んで、入ったコースを逆にたどって兼六園を出る。次の三十三観音の⑥月照寺には、三十三観音をはじめ、変った越前石製品多数があった。帰途、一部の者が時宗の⑦玉泉寺に立寄る。そして最後の⑧野田山墓地では前田利長・利家の墓、豪姫の墓、春香院（千代姫）の墓等を見学。藤島先生の解説をお聞きした野田山でポツポツ降っていた雨は、金沢駅に向うバスの中で大雨になり、金沢駅頭ではぼ予定時刻に、次回での再会を約して解散した。（K）



第二回例会出席者

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-----|-----|------|------|------|------|-------|------|------|------|-------|------|-------|------|-----|------|-----|------|-----|------|-------|------|------|------|-------|------|-------|------|-------|------|-------|------|-------|------|-------|------|-------|-----|--------|------|
| 京田良志 | 吉沢田鶴子 | 平井一雄 | 二上玲子 | 大野猪策 | 京田千鳥 | 亀沢和子 | 田村京子 | 小竹一夫 | 太田幸子 | 酒井初江 | 富田幸 | 酒井和 | 大浦美子 | 野上英子 | 埜村輝子 | 斉藤善夫 | 佐々木春子 | 南 金三 | 辻角紀子 | 井川靖一 | 服部ふじえ | 内海静子 | 久世嘉太郎 | たち礼子 | 大家女 | 奥村善久 | 上野女 | 千徳英一 | 赤丸女 | 清川 敏 | 清川沙知子 | 三井紀生 | 滝本靖士 | 彦坂貞次 | 武田志津子 | 吉田和子 | 福住みつえ | 藤島秀隆 | 谷村かよ子 | 南藤文子 | 高尾寿美子 | 藤村善雄 | 藤村外美子 | 松金宏喜 | 牧野たか子 | 岡田静子 | 山崎やすえ | 林貞子 | 大久保まさ子 | 京田悦子 |
|------|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-----|-----|------|------|------|------|-------|------|------|------|-------|------|-------|------|-----|------|-----|------|-----|------|-------|------|------|------|-------|------|-------|------|-------|------|-------|------|-------|------|-------|------|-------|-----|--------|------|

北陸石仏の会第三回例会案内

左記の要領で、例会を福井県小浜市で実施致しますので、お誘い合わせの上ご参加下さい。

月 日 平成五年七月十八日(日)

時 間 集合 午前十時三十分 JR小浜駅前
解散 午後三時二十分 JR小浜駅前

見学場所 一、常高寺墓地・宝篋印塔一基(寛永十一年)
二、化粧地藏
三、円照寺・大日如来坐像(重文)・不動明王立像(重文)
四、明通寺(国宝)本堂・三重塔・薬師如来坐像(重文)・
降三世・深沙大将・不動外
五、羽賀寺・本堂(重文)外

参加費 貸切りバス、入場料、昼食代を含め 五、〇〇〇円

参加希望の方は、七月三日(土・必着)まで、葉書に住所、氏名を記入の上、事務局までご送付ください。

〒939-13 砺波市太田一七七〇
尾田 武雄

参考 電話〇七六三―三二―二七七二
今回お世話下さるのは北野副会長
(〒919-11 福井県三方郡美浜町
早瀬13-10
北野 正明
電話〇七七三―三七―〇四二二)
です。

往きのJRに下のようなもの
があります。

	急行能登	雷鳥18号	しらさぎ4号	急行わかさ
直江津	4:39			
富山	6:10	6:58	7:10	
金沢	6:55着	7:45	7:52	
福井		8:36	8:42	
敦賀		9:11着	9:18着	9:27発
小浜				10:30着

新潟県石仏の会発足の報告

四月二十五日(日) 柏崎博物館大ホールにて設立総会が開催されました。会員総数一三〇名、当日参加者六十四名でした。

午前中は地元の阿部茂雄氏の案内で市内の淡島神社、極楽寺、西光寺などの境内の石仏を見学しました。丁度しだけ桜が満開で、花吹雪の中での有意義な見学会でした。午後一時より設立総会が開かれ、会の名称、会費、役員構成などの規約を討議、続いて役員を選出を行いました。その後、会員から会への希望に関するアンケートの集計結果の発表とそれに基づく今後の活動計画を検討しました。

第三部は地区別懇談会で、県内の各地区に別れて(四地区十六ブロック)顔合わせ会。会の運営、地区の状況などについて等の話あいが行われた後、ブロック代表、地区代表を選出しました。尚、テーマ別部門(写真、拓本、庚申信仰など専門部会)については、部会が発足次第部会代表を決定してゆくことになりました。第四部は会場をかえて懇親会をもち(参加者三十五名)、なかなかうちに会を閉じました。尚、日本石仏協会の坂口会長より祝電を賜り、また同協会北陸支部副支部長の京田氏の御出席を頂きました、共々厚く御礼申し上げます。

役員は次の通りであります。

会 長	阿部茂雄
事務局長	石田哲弥
地区代表	上越地区 秦 繁治・吉村 博
	中越地区 高橋保彦・内山 勇
	下越地区 梅田 始
	佐渡地区 高橋元輔

監 査 川村新治・梅田 始
会 計 星野紀子

事務局 渡辺三四一・斉藤義信・渡辺景子
会 費 年会費 二、五〇〇円(四月〜三月)
事 業 見学会・談話会・研究発表会
ミニ通信・会報・論文集など

連 絡 〒940-02 新潟県栃尾市平二一五七七(石田哲弥方)
今後とも御指導の程何卒宜しくお願い申し上げます。

尚、新潟県石仏の会の第二回見学会は九月十九日(日) 栃尾市に於いてで、北陸石仏の会第四回例会と兼ねる予定です。(K)

北陸石仏の会入会のすすめ

北陸四県以外の方の入会も歓迎いたします。例会は、総会を兼ねるものを含めて年四回の予定であり、約一ヶ月前会報にて案内いたします。例会への参加は、会員であるなしを問いませんので、お誘い合わせの上ご参加下さい。会費(年一、五〇〇円)の振込みは、同封の振替用紙をご利用下さい。

○日本石仏協会への連絡について

日本石仏協会への諸問い合わせは、
〒170 東京都豊島区南大塚二一三六一一―一三〇四 角田八重子宛にお願いします。また事務局のあります国書刊行会は、六月一日より左記に移転いたしました。
〒147 東京都板橋区志村二一〇一五 株式会社 国書刊行会